

秋落水田における早期水稲の収量性に関する研究

未沢一男・小西薫・西村昭司郎

1. 秋落水田における早期水稲の生育相は、普通水稲の場合と類似した傾向を示すようである。即ち、初期の生育は、普通田の場合より良好であるが、生育の後期は凋落して、所謂秋落現象を呈する。特に分けつ推移においてこの傾向が著しい。
2. 秋落水田における無硫酸根肥料の使用及び閃緑岩の客土、尿素団子の使用等は、生育を良くするに効果があり、早期水稲において顕著である。
3. 早期水稲の生育相は初期緩まんで、草丈は插秧後40日頃より急激な伸長をするが、普通水稲は插秧後20日頃より伸長が著しくなる。又分けつは、早期水稲は、插秧後20日頃までの低温時は、ほとんど茎数の増加がないが、その後急速に増加し、田植後45日~50日頃、最高に達する。そして、その分けつ数は、普通水稲のそれより20~30%程度多くなる。しかし最高分けつ期より茎数は次第に減少するが、その減少度は、普通水稲より激しく、一株の穂数は大差がなくなる。普通水稲は、活着後急速に増加するが、插秧後25日頃から、増加の速度が著しく落ち、その後は、徐々に増加して田植後35日頃最高に達する。その後は、早期水稲同様減少するが、その速度は緩まんで早期水稲のような急速な減少はしない。
4. 稈長は、秋落水田が普通田に劣るが、早期水稲では、その差が僅少である。穂長も又秋落水田が普通田に劣る。穂数も又秋落水田よりも、普通田が多く、有効茎歩合も秋落水田は普通田に劣る。
5. 早期水稲は、秋落水田における収量性が高く、且つ普通水稲よりも多収である。